

- 1 以下を日本語に翻訳しなさい。  
(下線を引いた語は、翻訳せず、原語をそのまま記して結構です)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Jacob Baal-Teshuva, *Christo and Jeanne-Claude*, Benedikt Taschen, 1995, pp.49-50.)

- 2 以下を日本語に翻訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Kyoto National Museum, Nikkei Inc., *Rinpa: The Aesthetics of the Capital*, Nikkei Inc., Television Osaka Inc., BS Japan Corporation, The Kyoto Shimbun Co. Ltd., 2015, p. XV.)

3 以下を日本語に翻訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Jacob Burckhardt, *The Civilization of the Renaissance in Italy*, Penguin Books, 1990, pp.130-131.)

2020年度 京都市立芸術大学美術研究科  
第二外国語（芸術学）フランス語入学試験

以下の1～2の仏文を和訳しなさい。（括弧内の出典については和訳不要）。

1)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Tienshe Hu, « La peinture en Chine », *Artibus Asiae*, Vol. 10, No. 2 (1947), p. 142.)

2)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Liliane Guerry, « L'espace dans la peinture de Cézanne », *Revue de Métaphysique et de Morale*, (1956), p. 2.)

令和二年度(二〇二〇年度)

京都市立芸術大学大学院美術研究科(修士課程) 入学試験問題

芸術学・第二外国語 中国語(含漢文)

問題1

別紙問題文①を、現代日本語に訳しなさい。(配点60点)

問題2

別紙問題文②の大意を、現代日本語で書きなさい。(配点40点)

※解答用紙の使用方向は、縦書きでも横書きでもよい。裏面も使用してよい。足りない場合は追加を請求すること。

出典

①汪向榮『日中関係史文献論考』(岳麓書社、一九八五年)二頁。

②宋・郭若虚『图画見聞誌』(画史叢書本)。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

問題文②

凡書，氣韻本乎游心，神彩生於用筆，用筆之難，斷可識矣。故愛賓稱唯王獻之能爲一筆書，陸探微能爲一筆畫。無適一篇之文，一物之像，而能一筆可就也。乃是自始及終，筆有朝揖，連絲相屬，氣脈不斷，所以意存筆先，筆周意內，畫盡意在，像應神全。夫內自足，然後神閒意定，神閒意定，則思不竭而筆不困也。昔宋元君將畫圖，衆史皆至，受揖而立，砥筆和墨，在外者半。有一史後至者，僮僮然不趨，受揖不立，因之舍。公使人視之，則解衣盤礴，羸。君曰：「可矣，是真畫者也。」又畫有三病，皆繫用筆。所謂三者，一曰版，二曰刻，三曰結。版者腕弱筆癡，全虧取與，物狀平褊，不能圓渾也。刻者違筆中疑，心手相戾，勾畫之際，妄生圭角也。結者欲行不行，當散不散，似物凝礙，不能流暢也。未窮三病，徒舉一隅，畫者鮮克留心，觀者當煩拭眚。

毫端，初視縱似可采，久之還覺意矣。

大抵氣韻高，筆墨壯，則愈玩愈妙。其或格凡